



追加型投信/海外/その他資産(バンクローン)

三菱UFJ 米国バンクローンファンド 米ドル円プレミアム(毎月分配型)/(年2回分配型)  
【愛称:スマートスター・プレミアム】

2016年1月の運用経過と今後の見通し

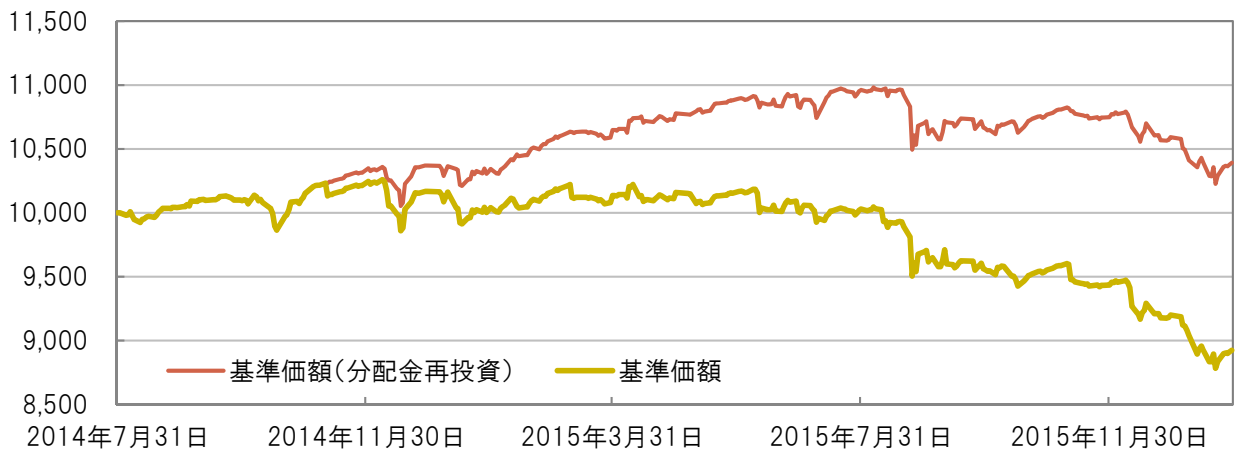
ファンド情報提供資料/データ基準日2016年1月29日

平素は「三菱UFJ 米国バンクローンファンド 米ドル円プレミアム(毎月分配型)/(年2回分配型)【愛称:スマートスター・プレミアム】」をご愛顧賜り、厚く御礼申し上げます。

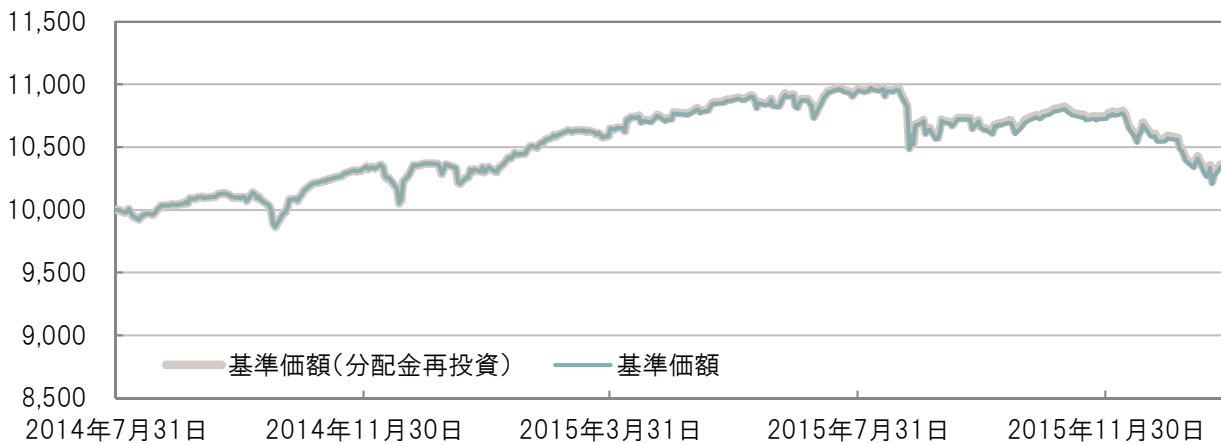
2016年に入り、世界の金融市場では株式市場が大きく下落する等、市場の変動が大きくなっており、当ファンドの基準価額も影響を受けています。つきましては、2016年1月の運用経過と今後の見通しについてご案内させていただきます。

当ファンドの基準価額の推移 (2014年7月31日～2016年1月29日)

毎月分配型



年2回分配型



- ・基準価額、基準価額(分配金再投資)は設定日前営業日を10,000として指数化しています。
- ・基準価額および基準価額(分配金再投資)は、信託報酬控除後の値です。
- ・基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

■ 上記は過去の実績・状況です。本見通しないし分析は作成時点での見解を示したものであり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。

## 三菱UFJ 米国バンクロンファンド 米ドル円プレミアム(毎月分配型)/(年2回分配型)

## 2016年1月の投資環境と運用状況

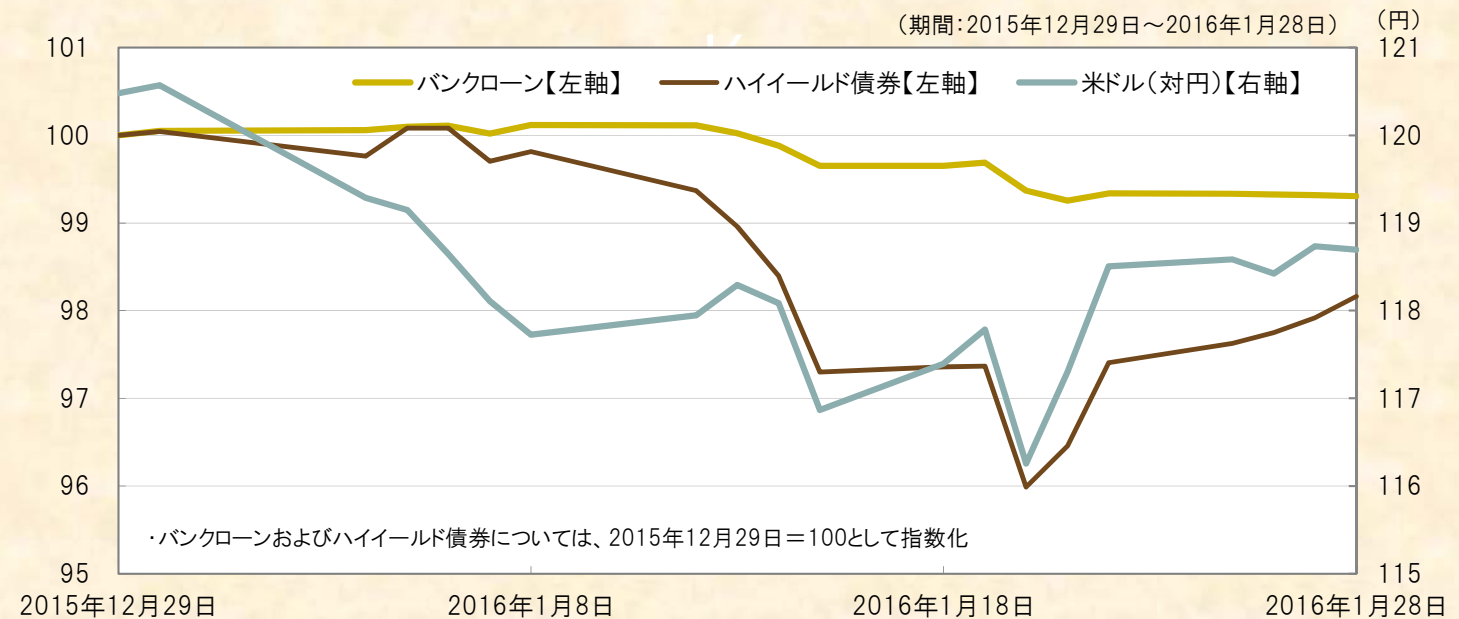
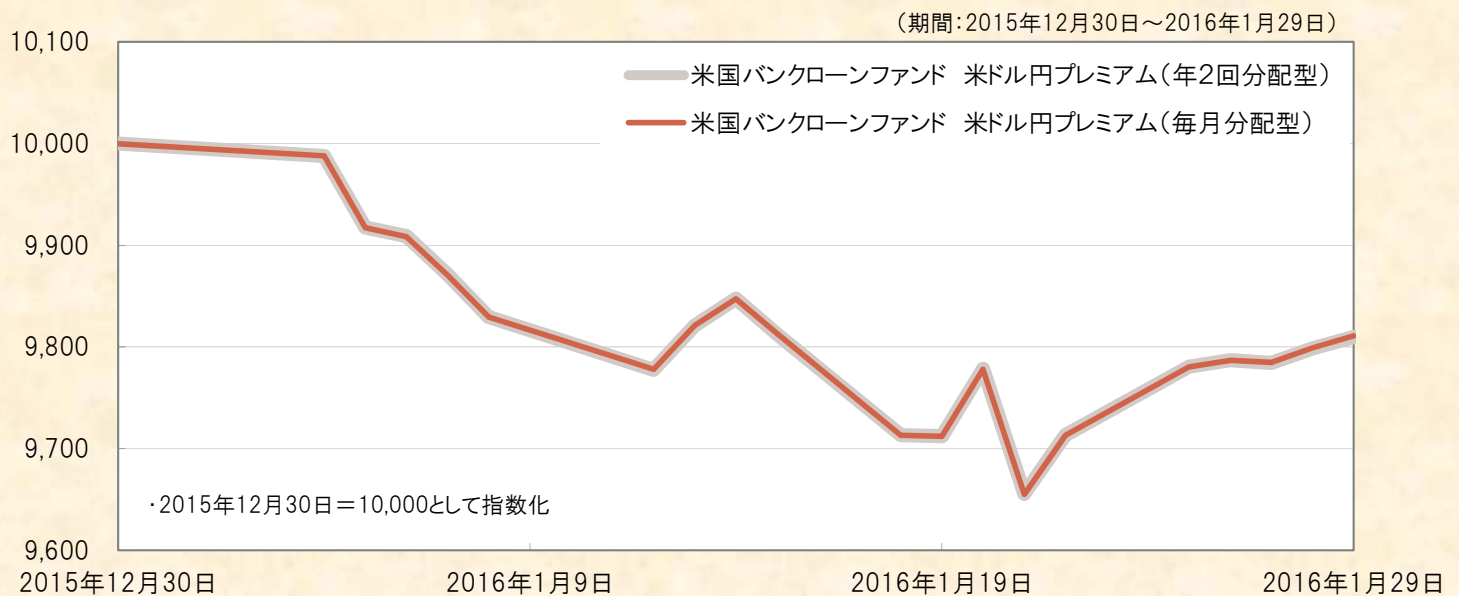
2016年初の金融市場では、中国景気に対する懸念の高まりや原油価格の下落等を背景に投資家のリスク回避姿勢が強まりました。

このような環境下、金融市場では総じて値動きの大きい展開となり、株式を中心とするリスク資産は軟調な推移となりました。米国バンクロン市場は米国ハイイールド債券市場と比較すると安定的に推移したものの、エネルギーや金属・鉱業など資源関連セクターが大きく下落したことが重石となり、月を通じて見ると下落しました。

こうした状況の中、為替市場においては投資家心理の悪化により逃避先としての円に対する需要が高まったことから、月を通してみると円高米ドル安となりました。

(出所)ピムコジャパンリミテッドのコメントをもとに三菱UFJ国際投信作成

## 当ファンドの基準価額(分配金再投資)とバンクロン(米ドルベース)・ハイイールド債券(米ドルベース)・米ドル(対円)の推移



(出所)ブルームバーグ社、BofAメリルリンチ社のデータより三菱UFJ国際投信作成

・基準価額(分配金再投資)は、信託報酬控除後の値です。基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。  
・ファンドについては2015年12月30日~2016年1月29日、バンクロン、ハイイールド債券と米ドル(対円)についてはファンドの基準価額算出基準に合わせて2015年12月29日~2016年1月28日の値を掲載しています。

■ 上記は過去の実績・状況です。本見通しなしい分析は作成時点での見解を示したものであり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。■ 上記は指数を使用しています。指数については【当資料で使用した指数について】をご覧ください。計測期間が異なる場合は、結果も異なる点にご注意ください。

## 三菱UFJ 米国バンクローンファンド 米ドル円プレミアム(毎月分配型)/(年2回分配型)

## 基準価額の変動要因

2016年1月末の基準価額は毎月分配型、年2回分配型ともに前月末から下落しました。

米ドル建てバンクローンについては、利子収入を享受したことがプラス【A】となったものの、バンクローンやハイイールド債券市況が軟調に推移したこと【E】や円高米ドル安が進んだこと【D】を受けて、全体としては基準価額の下落要因となりました。

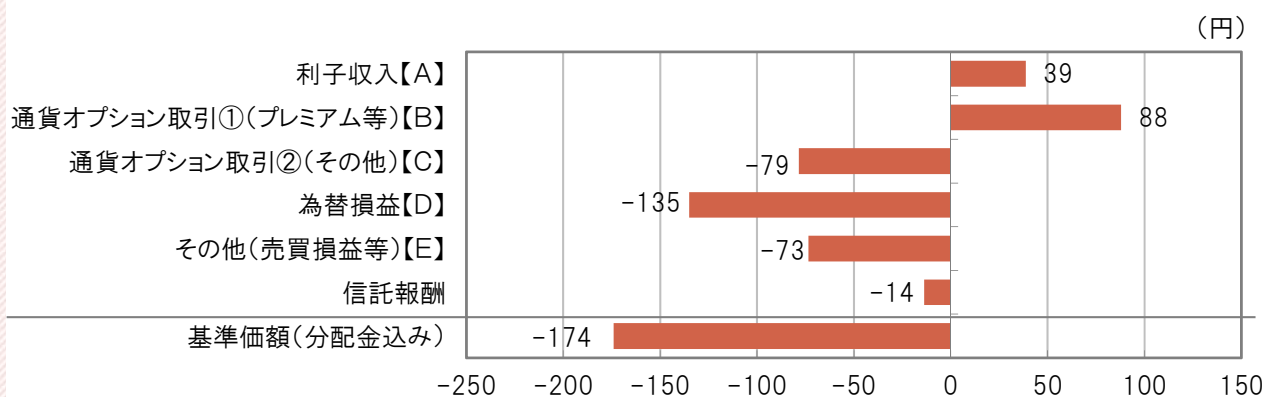
通貨カバード・コール戦略については、オプション・プレミアムを享受したことがプラス【B】となった一方で、月末にかけて円安米ドル高となったこと等を受け、月中に売却した一部のコール・オプション価格が上昇したことがマイナス【C】となり、合わせると若干のプラスになりました。

(出所)ピムコジャパンリミテッドのコメントをもとに三菱UFJ国際投信作成

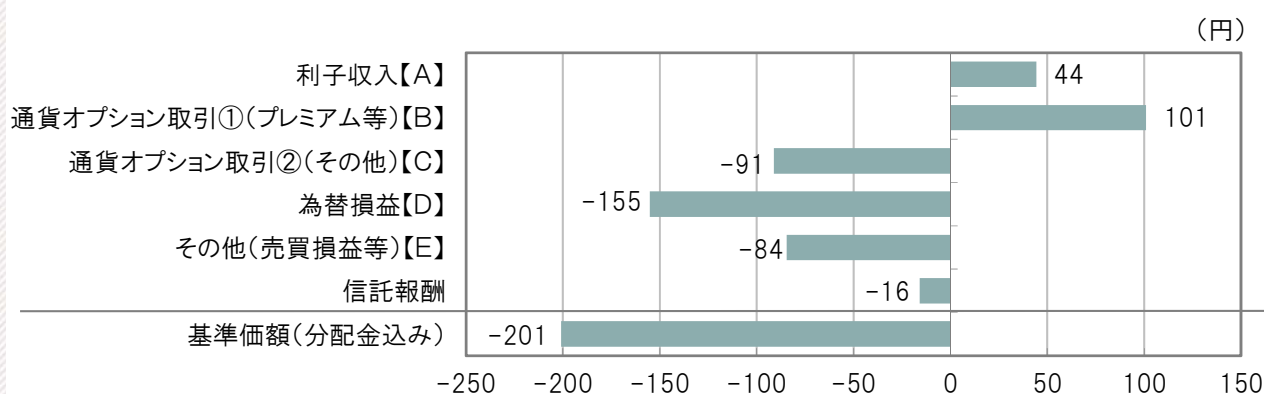
## 月間の基準価額の変動要因分析(概算値)

下図の数値の一部はシミュレーションを用いているため、実際のファンドの数値とは異なります。

## 毎月分配型 (2016年1月29日現在)



## 年2回分配型 (2016年1月29日現在)



・通貨オプション取引のうち、①は、オプション・プレミアム収入を簡便的に算出したものであり、実際の値とは異なります。

②は、権利行使に伴う損失等を簡便的に算出したものであり実際の値とは異なります。

・為替損益は当該ファンドに係る為替評価損益の概算値です。

・その他(売買損益等)は、基準価額(分配金込み)の変動幅から利子収入、通貨オプション取引部分①、②、為替損益、信託報酬を差し引いて算出しています。

・四捨五入のため全体計(基準価額(分配金込み)の変動幅)と内訳の合計が相違することがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しております。

上図の変動要因分析は、組入バンクローン等の値動き等が基準価額に与えた影響等をご理解いただくために簡便的に計算した概算値であり、その正確性、完全性を保証するものではありません。

■ 上記は過去の実績・状況です。本見通ししない分析は作成時点での見解を示したものであり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。



## 三菱UFJ 米国バンクローンファンド 米ドル円プレミアム(毎月分配型)/(年2回分配型)

※「ピムコ バミューダ バンクローン ファンド(M)」の運用会社であるピムコ社の資料(現地月末基準)に基づき作成したものです。

当ファンドが投資しているピムコ バミューダ バンクローン ファンド (M)の運用状況

## ポートフォリオの利回り・デュレーションについて

2016年1月末時点でのポートフォリオの利回り・デュレーションは下記のようになっています。

## 利回り・デュレーション (2016年1月29日現在)

	当月末	前月末	増減
想定利回り	5.45%	5.72%	-0.27%
直接利回り	4.35%	4.37%	-0.02%
デュレーション	1.11年	0.84年	0.27年

- ・上記データは概算値です。
- ・想定利回りとは、計算日時点の組入バンクローン等を満期まで保有した場合の複利利回りを加重平均したものです。
- ・直接利回りとは、個別銘柄等についての表面利率を資産価格で除し、組入比率に応じて加重平均したものです。
- ・利回りは、計算日時点の評価に基づくものであり、売却や償還による差損益等を考慮した後のファンドの「期待利回り」を示すものではありません。
- ・デュレーションは、フロアを考慮して算出したバンクローンの金利感応度を表します。ピムコ社独自の算出方法によるものです。

当ファンドが主要投資対象としているバンクローンは、一般に、クーポンが基準金利を基に変更される変動金利のため、固定金利の債券に比べ市場の金利変動による価格変動リスクが小さくなります。また、上記のバンクローンの想定利回り算出にあたっては、計算日時点の残存期間別の金利水準を基に将来の金利動向を見込んだ数値で利回りを算出しています。上記利回りは将来の利回り水準を示唆、保証するものではありません。

当ファンドが投資しているピムコ バミューダ バンクローン ファンド C-クラス Y (C-USD)の通貨オプション部分の状況

## カバード・コール戦略について

当ファンドは、通貨カバード・コール戦略により、円安・米ドル高による為替差益の一部を放棄する一方、オプション・プレミアムの獲得をめざします。

足下では、為替の価格変動の高まりを受けて、オプション・プレミアムは2016年1月末にかけて上昇傾向となっています。

(出所)ピムコジャパンリミテッドのコメントをもとに三菱UFJ国際投信作成

## ポートフォリオ特性値 (2016年1月29日現在)

	当月末	前月末
オプション・プレミアム	14.95%	9.95%
カバー率	102.12%	100.80%
平均権利行使価格	97.32%	100.66%
平均権利行使期間	16日	17日

- ・上記データは概算値です。
- ・オプション・プレミアムは円建外国投資信託の純資産総額に対する年率調整後のプレミアムの水準です。
- ・カバー率は、円建外国投資信託の純資産総額に対するオプションのポジションです。
- ・平均権利行使価格は、原資産価格(通貨)に対する権利行使価格の水準(現地月末基準)です。
- ・平均権利行使期間は、基準日からオプション権利行使日までの平均日数です。

■上記は過去の実績・状況です。本見通しのない分析は作成時点での見解を示したものであり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。

## 三菱UFJ 米国バンクローンファンド 米ドル円プレミアム(毎月分配型)/(年2回分配型)

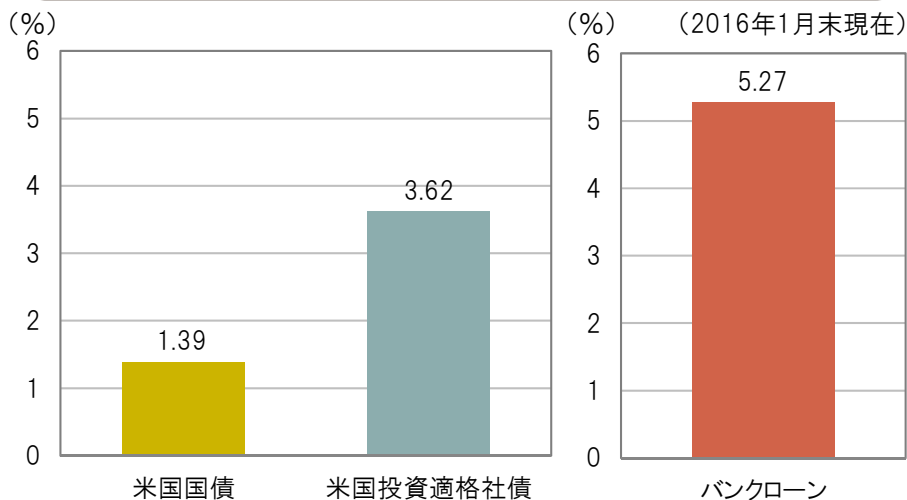
## 今後の見通しと運用方針

米国では継続的な雇用環境の回復と住宅価格の上昇による資産効果が消費を押し上げ、景気回復が続くことが想定されます。米国では2015年12月に9年半ぶりとなる利上げが発表され、今後も緩やかなペースで利上げが実施されると予想されます。一方、原油価格の動向や中国経済の先行き不透明感等が金融市場全体の変動幅を高めている点に注意する必要があります。

バンクローンやハイイールド債券の発行体(貸付先)である米国企業のファンダメンタルズは、エネルギー等の資源関連セクターを除いて概ね健全な状態にあります。原油価格の動向がエネルギー・セクターに及ぼす影響について注視する必要があるものの、バンクローン市場ではエネルギー・セクターの比率が相対的に低いことから、同市場への影響は相対的に限定的なものに留まると考えられます。また、今後も緩やかなペースでの利上げが想定される中、「相対的に高い利回り水準にありながら、通常の債券と比較して金利変動による影響を受け難い」というバンクロンの特性に着目する投資家からの需要が見込まれます。

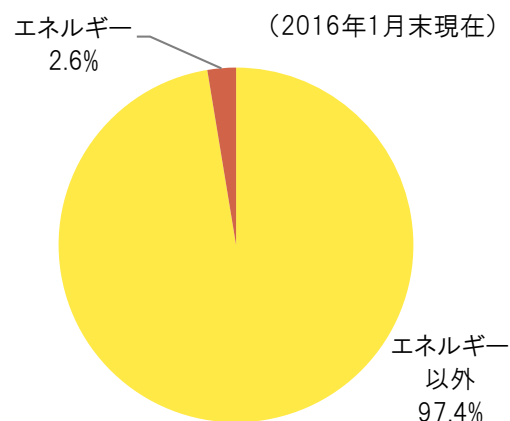
今後の運用方針としては、長期的なファンダメンタルズや信用力に着目した銘柄選択が最も重要であると考えており、引き続き、強固な資本構成を有し、高い参入障壁や堅固な成長性によって事業基盤が安定している比較的信用力の高い銘柄を中心に投資を行う方針です。

(出所)ピムコジャパンリミテッドの情報を基に三菱UFJ国際投信作成

米国国債・米国投資適格社債の最終利回り  
とバンクロンの直接利回り

・最終利回りとは、個別債券等について満期まで保有した場合の複利利回りを加重平均したものです。  
 ・バンクロンの直接利回りは、基準日時点の金利(基準金利に企業の信用力などを加味した金利)を資産価格で除して算出した利回りです。

(出所)ブルームバーグ社、パークレイズ社、クレディスイス証券のデータより三菱UFJ国際投信作成

バンクロンの  
エネルギーセクターの比率

(出所)クレディ・スイス証券のデータより三菱UFJ国際投信作成

■ 上記は過去の実績・状況です。本見通し・分析は作成時点での見解を示したものであり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。■ 上記は指数を使用しています。指数については【当資料で使用した指数について】をご覧ください。計測期間が異なる場合は、結果も異なる点にご注意ください。

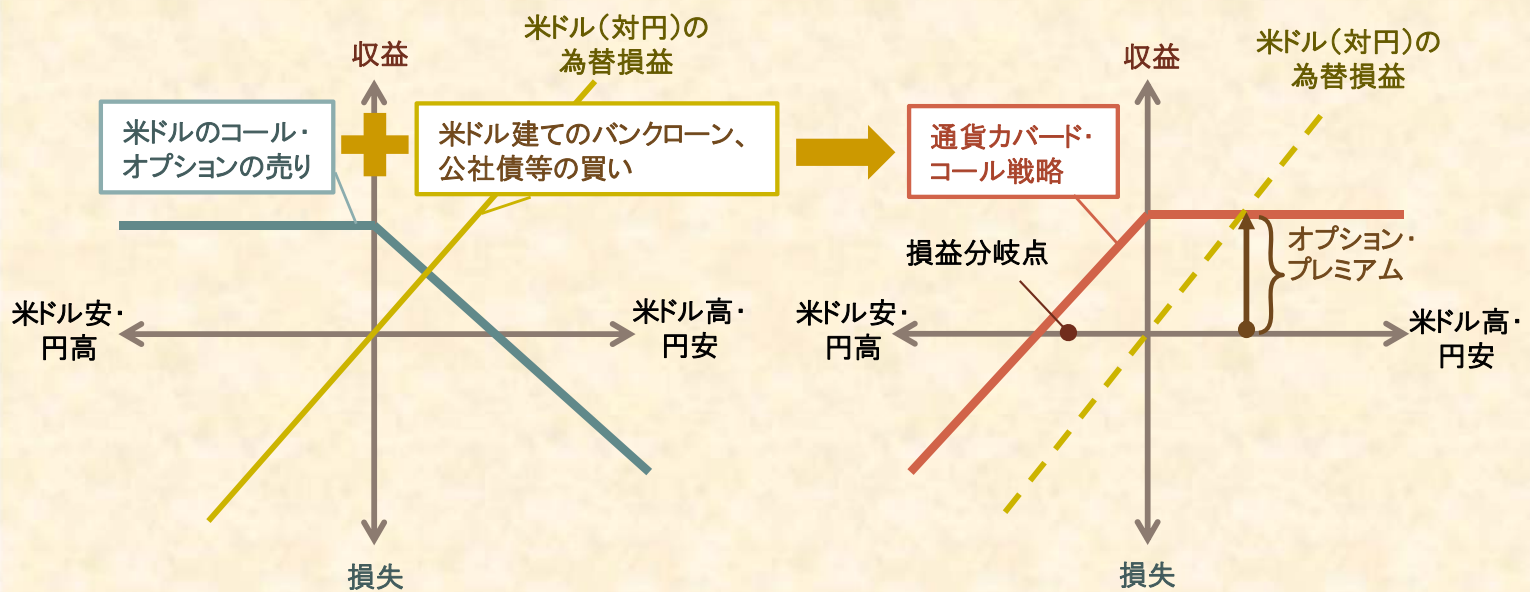
## 三菱UFJ 米国バンクローンファンド 米ドル円プレミアム(毎月分配型)/(年2回分配型)

## 通貨カバードコール戦略とは

ファンドにおける通貨カバード・コール戦略とは、米ドル建てのバンクローン、公社債等への投資に加えて、円に対する米ドルのコール・オプションを売却する戦略です。為替差益を放棄する代わりに、オプション・プレミアム収入の獲得をめざすものです。

一方、円高米ドル安が進んだ場合には、為替差損が発生することになります。くわしくは、下の図をご覧ください。

## オプション満期日における通貨カバード・コール戦略の損益イメージ図



・オプション・プレミアムは市況動向によって大きく変動する場合があります。

- ・上記は当ファンドの通貨カバード・コール戦略の性質を説明したものです。通貨カバード・コール戦略の全てを説明したものではありません。場合により該当しないことがあります。また、上記はイメージ図であり、実際の為替変動および投資損益を示唆するものではありません。
- ・オプション取引の満期日をまたいで円に対する米ドルの価格が大きく変動した際には、その後当初の水準程度に戻った場合でも、基準価額は当初の水準を下回る可能性があります。
- ・ファンドでは、原則として権利行使が満期日のみ可能なオプションを利用します。
- ・ファンドが実際に行うコール・オプションの売却は、市場環境の変化やファンドの設定・解約状況に応じて複数の異なる権利行使価格、満期日で行うことがあります。そのため、個別のお客さまの損益は上記イメージと異なる場合があります。
- ・ファンドの損益は、上記戦略による損益に加えて、原資産であるバンクローン等の価格変動や利子収入等の影響を受けます。

## 三菱UFJ 米国バンクローンファンド 米ドル円プレミアム(毎月分配型)/(年2回分配型)

## 通貨カバード・コール戦略における「為替水準」の変化と「基準価額(為替による影響部分)」の関係

通貨カバード・コール戦略では、コール・オプションが満期(下表の例では1ヵ月後)を迎えた場合、そのコール・オプションは清算されて消滅し、新たなコール・オプションを売却することになりますが、為替が短期的に大きく上昇・下落してコール・オプションが満期を迎え、その後為替が元の水準に戻った場合でも、基準価額が元の水準を下回ることがあります。

## 為替水準の変動によって基準価額(為替による影響部分)が影響を受けるケース(イメージ)

◎下記イメージは、バンクローンのパフォーマンス、インカム収入等は考慮していません。

		緩やかな変動のケース (「100円 → 99円 → 100円」 (当初) (1ヵ月後) (2ヵ月後) と推移した場合)			急激な変動のケース (「100円 → 95円 → 100円」 (当初) (1ヵ月後) (2ヵ月後) と推移した場合)		
オプション 売却時の 前提条件	時期	当初	1ヵ月後		当初	1ヵ月後	
	為替レート	100円	99円		100円	95円	
	行使価格	100円	99円		100円	95円	
	プレミアム	1円	1円		1円	1円	
オプション 満期時の 状況・損益	時期	1ヵ月後	2ヵ月後	2ヵ月累計	1ヵ月後	2ヵ月後	2ヵ月累計
	為替レート	99円	100円		95円	100円	
	為替相場の状況	米ドル下落 (円高)	米ドル上昇 (円安)	変わらず	米ドル下落 (円高)	米ドル上昇 (円安)	変わらず
	バンクローン部分 の為替差損益	-1円	1円	0円	-5円	5円	0円
	オプション・ プレミアム	1円	1円	2円	1円	1円	2円
	オプション被行使 による損失	—	-1円	-1円	—	-5円	-5円
損益合計		0円	1円	1円	-4円	1円	-3円
オプション・プレミアムによる 収益獲得				オプション・プレミアムでカバーできず、 損失が発生			

## ※シミュレーションに関する留意事項

上記は通貨カバード・コール戦略による損益をイメージしていただくために以下の仮定に基づき算出したシミュレーションです。

実際の運用におきまして、プレミアム・行使価格は為替相場の変動に伴い大きく変化することにご留意ください。

・プレミアム:1円

・行使価格:コール・オプション売却時の為替レートと同じレート

・ファンドの損益は、上記戦略による損益に加えて、原資産であるバンクローン等の価格変動や利子収入等の影響を受けます。

・ファンドが実際に行うコール・オプションの売却は、市場環境の変化やファンドの設定・解約状況に応じて複数の異なる権利行使価格、満期日で行うことがあります。

そのため、個別のお客さまの損益は上記イメージと異なる場合があります。

・上記はイメージ図であり、実際の為替変動および投資損益を示唆するものではありません。

## 収益分配金に関する留意事項

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

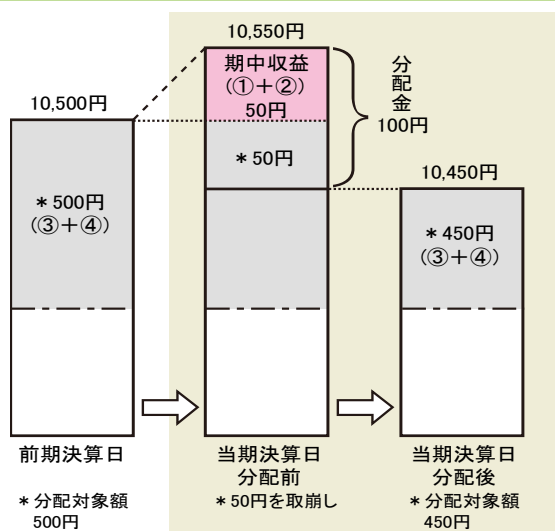


- 分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

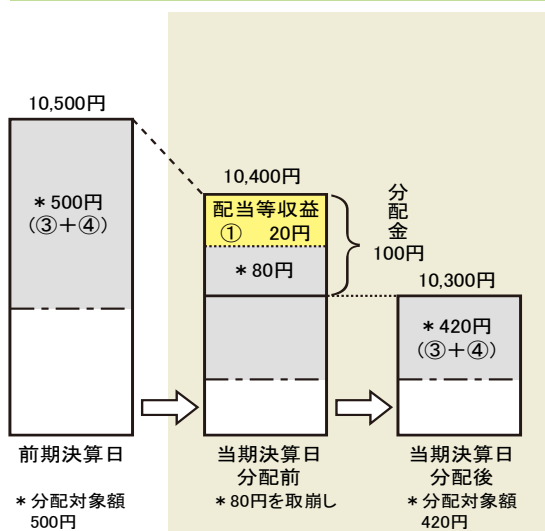
分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。  
分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

(計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合)

(前期決算日から基準価額が上昇した場合)



(前期決算日から基準価額が下落した場合)



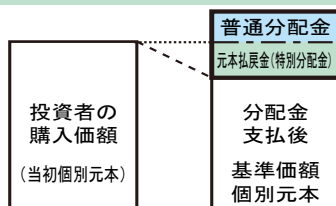
※上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご注意ください。

分配準備積立金: 当期の①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益のうち、当期分配金として支払わなかった残りの金額をいいます。信託財産に留保され、次期以降の分配金の支払いに充当できる分配対象額となります。

収益調整金: 追加型投資信託で追加設定が行われることによって、既存の受益者への収益分配可能額が薄まらないようにするために設けられた勘定です。

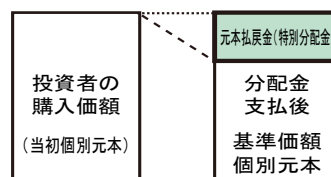
- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。

(分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合)



※元本払戻金(特別分配金)は実質的に元本の一部払戻しとみなされ、その金額だけ個別元本が減少します。また、元本払戻金(特別分配金)部分は非課税扱いとなります。

(分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合)



普通分配金: 個別元本(投資者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。

元本払戻金(特別分配金): 個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。

(注) 普通分配金に対する課税については、投資信託説明書(交付目論見書)をご参照ください。



**三菱UFJ 米国バンクローンファンド 米ドル円プレミアム【愛称:スマートスター・プレミアム】**
**ファンドの目的・特色**
**■ファンドの目的**

米ドル建てのバンクローン(貸付債権)、公社債等への投資に加えて、円に対する米ドルのコール・オプションの売却によってオプション・プレミアム収入を獲得する、通貨カバード・コール戦略を実質的に活用することにより、利子収益の確保および値上がり益の獲得をめざします。

**■ファンドの特色**

・主として円建外国投資信託であるピムコ バミューダ バンクローン ファンド C-クラス Y (C-USD) への投資を通じて、米ドル建てのバンクローン(貸付債権)(以下、「バンクローン」といいます。)、公社債等への投資に加えて、円に対する米ドルのコール・オプションの売却を実質的に行います。これにより、為替差益を放棄する代わりに、オプション・プレミアム収入を獲得する、通貨カバード・コール戦略を実質的に活用します。また、証券投資信託であるマネー・マーケット・マザーファンド(わが国の短期公社債等に投資)への投資も行います。(ファンド・オブ・ファンズ方式)

・投資する米ドル建てのバンクローン、公社債等は、原則として取得時においてCCC一格相当以上の格付けを取得しているものに限り、

・コール・オプションの売却に伴い、オプション・プレミアム収入を獲得する一方、権利行使に伴う損失が発生する場合があります。

・原則として、対円での為替ヘッジを行いません。

・投資対象とする円建外国投資信託への投資は高位を維持することを基本とします。

・投資信託証券への運用の指図に関する権限をピムコジャパンリミテッドに委託します。

**\*バンクローンとは**

銀行等の金融機関が主に投資適格未満(BB格相当以下)の事業会社等に対して行う貸付債権のことです。主に投資適格未満の相対的に信用力が低い企業に対する貸付債権であるため、投資適格債券(BBB格相当以上)と比較して信用力が低い分、相対的に利回りが高くなっています。

同一発行体について比較した場合、バンクローンは一般的に、担保が付されており、債券等に比べて債務の弁済順位が高いのが特徴です。バンクローンの利子は主に変動金利となっていて、通常、基準となる短期の市場金利に一定の金利が上乗せされた利子が支払われ、一定期間ごとに見直しが行われます。(上記の格付けは、付加記号を省略して表示しています。)

**(コール・オプションとは)**

・コール・オプションとは、株式や通貨などを将来の特定の期日に、合意に基づいて定められた価格(権利行使価格)で買う権利のことです。

この権利を売却することで売り手は代金(オプション・プレミアム)を得ますが、同時に満期日において権利行使に応じる義務を負います。

当該コール・オプションの満期日において権利の買い手が権利を行使することで、売り手にとって損失が発生する可能性があります。

このように、取引における最終的な損益は、オプション・プレミアム収入に、権利行使に伴う損失を加味して考える必要があります。

ファンドが売却したコール・オプションは時価で評価され、満期日までの当該時価の変動が基準価額に影響します。そのため、コール・オプションの売却時点で、基準価額がオプション・プレミアム収入相当分上昇するものではありません(なお、コール・オプションの売却は円建ての外国投資信託が行います)。

**(通貨カバード・コール戦略とは)**

・ファンドにおける通貨カバード・コール戦略とは、米ドル建てのバンクローン、公社債等への投資に加えて、円に対する米ドルのコール・オプションを売却する戦略です。為替差益を放棄する代わりに、オプション・プレミアム収入の獲得をめざすものです。ファンドでは、原則として権利行使が満期日のみ可能なオプションを利用します。

ファンドが実際に行うコール・オプションの売却は、市場環境の変化やファンドの設定・解約状況に応じて複数の異なる権利行使価格、満期日で行うことがあります。

ファンドの損益は、通貨カバード・コール戦略による損益に加えて、原資産であるバンクローン等の価格変動や利子収入等の影響を受けます。

**<分配方針>**

・分配頻度の異なる「三菱UFJ 米国バンクローンファンド 米ドル円プレミアム(毎月分配型)」と「三菱UFJ 米国バンクローンファンド 米ドル円プレミアム(年2回分配型)」があります。

・「毎月分配型」は毎月の決算時(11日(休業日の場合は翌営業日))に、「年2回分配型」は年2回の決算時(4・10月の各11日(休業日の場合は翌営業日))に収益分配を行います。

分配対象収益が少額の場合には、分配を行わないことがあります。また、分配金額は運用実績に応じて変動します。将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

**<主な投資制限>**

・投資信託証券への投資割合に制限を設けません。

・外貨建資産への直接投資は行いません。

**《ご購入の際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。》**

委託会社(ファンドの運用の指図等) 三菱UFJ国際投信株式会社

受託会社(ファンドの財産の保管・管理等) 三菱UFJ信託銀行株式会社

販売会社(購入・換金の取扱い等) 後記の各照会先でご確認いただけます。

設定・運用 …三菱UFJ国際投信株式会社  
 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号  
 加入協会 一般社団法人投資信託協会  
 一般社団法人日本投資顧問業協会

## 三菱UFJ 米国バンクロンファンド 米ドル円プレミアム【愛称:スマートスター・プレミアム】

## 投資リスク

## ■基準価額の変動要因

ファンドの基準価額は、組み入れている有価証券等の価格変動による影響を受けますが、これらの運用により信託財産に生じた損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。

したがって、投資者のみなさまの投資元金が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。

投資信託は預貯金と異なります。

ファンドの基準価額の変動要因として、主に以下のリスクがあります。

## 市場リスク

## (価格変動リスク)

一般に、公社債等の価格は市場金利の変動等を受けて変動するため、ファンドはその影響を受け組入公社債等の価格の下落は基準価額の下落要因となります。また、円に対する米ドルのコール・オプションの売却を行うため、円安・米ドル高や対円での米ドルの価格変動率が上昇すること等によるコール・オプションの価格の上昇は、基準価額の下落要因となります。

## (為替変動リスク)

組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いませんので、為替変動の影響を大きく受けます。

「通貨カバード・コール戦略について」

ファンドは実質的に米ドル建てのバンクロン、公社債等への投資に加えて、権利行使価格が取引時点の為替レートと同水準の円に対する米ドルのコール・オプションの売却を行います。これにより、原則として円安・米ドル高による為替差益を獲得することができません。

## 信用リスク

組入有価証券等(バンクロンを含みます。以下同じ。)の発行者や取引先等の経営・財務状況が悪化した場合またはそれが予想された場合もしくはこれらに関する外部評価の悪化があった場合等には、当該組入有価証券等の価格が下落することやその価値がなくなること、または利払い・償還金の支払いが滞ることがあります。

## 流動性リスク

有価証券等を売却あるいは取得しようとする際に、市場に十分な需要や供給がない場合や取引規制等により十分な流動性の下での取引を行えない場合または取引が不可能となる場合、市場実勢から期待される価格より不利な価格での取引となる可能性があります。また、バンクロンは、公社債と比べ、一般的に取引量も少ないため、流動性リスクも高い傾向にあります。

ファンドは、格付けの低いバンクロンを投資対象としており、格付けの高い公社債等への投資を行う場合に比べ、信用・流動性の各リスクが大きくなる可能性があります。

## ■その他の留意点

・ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリングオフ)の適用はありません。

・金融危機の発生等により、バンクロン等の市場流動性が極端に低下した際には、委託会社の判断により、購入・換金の申込みを中止することがあります。

・オプション取引の満期日をまたいで円に対する米ドルの価格が大きく変動した際には、その後当初の水準程度に戻った場合でも、基準価額は当初の水準を下回る可能性があります。

・円に対する米ドルの価格が大きく下落する中でファンドへ大量の資金流入が発生した際には、その後円に対する米ドルの価格が当初の水準程度に戻った場合でも、基準価額は当初の水準を下回る可能性があります。

## ■リスクの管理体制

ファンドのコンセプトに沿ったリスクの範囲内で運用を行うとともに運用部門から独立した管理担当部署によりリスク運営状況のモニタリング等のリスク管理を行っています。

また、運用委託先で投資リスクに対する管理体制を構築していますが、委託会社においても運用委託先の投資リスクに対する管理体制や管理状況等をモニタリングしています。



## 三菱UFJ 米国バンクロンファンド 米ドル円プレミアム【愛称:スマートスター・プレミアム】

## 手続・手数料等

## ■お申込みメモ

購入単位	販売会社が定める単位 販売会社にご確認ください。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額 ※ファンドの基準価額は1万口当たりで表示されます。基準価額は委託会社の照会先でご確認ください。
購入代金	販売会社の定める期日までに販売会社指定の方法でお支払いください。
換金単位	販売会社が定める単位 販売会社にご確認ください。
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して6営業日目から販売会社においてお支払いします。
申込締切時間	原則として、午後3時までに販売会社が受け付けた購入・換金のお申込みを当日のお申込み分とします。
申込不可日	ニューヨーク証券取引所の休業日、ニューヨークの銀行の休業日は、購入・換金のお申込みができません。2016年の該当日は1月18日、2月15日、3月25日、5月30日、7月4日、9月5日、11月11日、11月24日、12月26日です。なお、休業日は変更される場合があります。
換金制限	ファンドの資金管理を円滑に行うため、大口の換金のお申込みには制限を設ける場合があります。
購入・換金申込受付の中止および取消し	金融商品取引所等における取引の停止、その他やむを得ない事情（投資対象証券の購入・換金の制限、流動性の極端な減少等）があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止することおよびすでに受け付けた購入・換金のお申込みの受付を取り消すことがあります。
信託期間	2018年10月11日まで(2014年7月31日設定)
繰上償還	各ファンドについて、受益権の口数が10億口を下回ることとなった場合、または各ファンドの受益権の口数を合計した口数が30億口を下回ることとなった場合等には、信託期間を繰り上げて償還となる場合があります。なお、投資対象とする外国投資信託が償還する場合には繰上償還となります。
決算日	三菱UFJ 米国バンクロンファンド 米ドル円プレミアム(毎月分配型) 毎月11日(休業日の場合は翌営業日) 三菱UFJ 米国バンクロンファンド 米ドル円プレミアム(年2回分配型) 毎年4・10月の各11日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	三菱UFJ 米国バンクロンファンド 米ドル円プレミアム(毎月分配型): 毎月の決算時に分配を行います。 三菱UFJ 米国バンクロンファンド 米ドル円プレミアム(年2回分配型): 年2回の決算時に分配を行います。 ※販売会社との契約によっては、収益分配金の再投資が可能です。
課税関係	課税上、株式投資信託として取り扱われます。 公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度「NISA(ニーサ)」の適用対象です。 詳しくは販売会社にお問い合わせください。



## 三菱UFJ 米国バンクロンファンド 米ドル円プレミアム【愛称:スマートスター・プレミアム】

## 手続・手数料等

## ■ファンドの費用・税金

## ・ファンドの費用

【お客さまには以下の費用をご負担いただきます。】

## お客さまが直接的に負担する費用

## 購入時

購入時手数料	購入価額× <b>3.24%(税抜 3%)</b> (上限) 購入時手数料は販売会社が定めます。詳しくは販売会社にご確認ください。
--------	--

## 換金時

信託財産留保額	ありません。
---------	--------

## お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

## 保有期間中

運用管理費用 (信託報酬)	純資産総額× <b>年1.836%(税抜 年1.7%)</b> ファンドが投資対象とする投資信託証券では運用管理費用(信託報酬)はかかりませんので、お客さまが負担する実質的な運用管理費用(信託報酬)は上記と同じです。
その他の費用・ 手数料	売買委託手数料等、監査費用、投資対象とする投資信託証券における諸費用等を信託財産からご負担いただきます。 これらの費用は運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することができません。

※運用管理費用(信託報酬)、監査費用は毎日計上され、毎決算時または償還時に信託財産から支払われます。その他の費用・手数料(監査費用を除きます。)は、その都度信託財産から支払われます。

※購入時手数料、運用管理費用(信託報酬)およびその他の費用・手数料(国内において発生するものに限ります。)には消費税等相当額が含まれます。

※お客さまにご負担いただく手数料等の合計額は、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

## ・購入時手数料に関する留意事項

お客さまにご負担いただく購入時手数料の具体的な金額例は以下の通りです。下記はあくまでも例示であり、手数料率は販売会社ごとに異なります。また、販売会社によっては金額指定、口数指定どちらかのみのお取扱いになる場合があります。詳しくは、販売会社にご確認ください。

## 【金額を指定して購入する場合】

購入金額に購入時手数料を加えた額が指定金額となるよう購入口数を計算します。例えば、100万円の金額指定でご購入いただく場合、お支払いいただく100万円の中から購入時手数料(税込)をご負担いただきますので、100万円全額が当該ファンドの購入金額となるものではありません。

## 【口数を指定して購入する場合】

～手数料率3.24%(税込)の例～  
例えば、基準価額10,000円(1万口当たり)の時に100万口ご購入いただく場合、購入時手数料=(10,000円÷1万口)×100万口×3.24%=32,400円となり、合計1,032,400円をお支払いいただくこととなります。

## ・税金

個人受益者については、分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の価額から取得費を控除した利益に対して課税されます。なお、法人の課税は異なります。また、税法が改正された場合等には、変更となる場合があります。詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

## 当資料のご利用にあたっての注意事項等

■投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、貯金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。／販売会社が登録金融機関の場合、投資者保護基金に加入しておりません。／投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。／投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)等の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

■当資料は、当ファンドの2016年1月の運用経過と今後の見通しをお知らせするために三菱UFJ国際投信が作成した資料です。／当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。／当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。／当資料中のグラフ・数値等は、過去の実績・状況であり、将来の市場環境等や運用成果等を示唆・保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。

■市況動向および資金動向等により、ファンドの基本方針通りの運用が行えない場合があります。

《ご購入の際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。》

＜お客様専用フリーダイヤル＞ **0120-151034**  
受付時間／9:00～17:00(土・日・祝日・12月31日～1月3日を除く)

＜オフィシャルサイト＞ <http://www.am.mufg.jp/>



## 販売会社情報一覧表

ファンド名称: 三菱UFJ 米国バンクローンファンド 米ドル円プレミアム

商号	登録番号等	加入協会
株式会社 三菱東京UFJ銀行 (委託金融商品取引業者 三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社)	登録金融機関 関東財務局長(登金)第5号	日本証券業協会／一般社団法人金融先物取引業協会／ 一般社団法人第二種金融商品取引業協会
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2336号	日本証券業協会／一般社団法人日本投資顧問業協会／ 一般社団法人金融先物取引業協会／ 一般社団法人第二種金融商品取引業協会

**【当資料で使用した指数について】**

**■バンクローン: クレディ・スイス・レバレッジド・ローン・インデックス**

クレディ・スイス・レバレッジド・ローン・インデックスとは、クレディ・スイス証券が算出する、バンクローンの値動きを表すインデックスです。

**■ハイイールド債券: BofAメリルリンチ 米国ハイイールド インデックス**

BofAメリルリンチ 米国ハイイールド インデックスとは、BofAメリルリンチ社が算出する米国のハイイールド債券の値動きを表す指数です。同指数に関する知的所有権、その他一切の権利はBofA メリルリンチに帰属します。BofA メリルリンチは同指数を参照して行われる当社の事業活動・サービスに関し一切の責任を負いません。

**■米回国債: シティ米国債インデックス**

シティ米国債インデックスとは、Citigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている、米国債の総合収益率を指数化した債券インデックスです。

**■米国投資適格社債: パークレイズ米国社債インデックス**

パークレイズ米国社債インデックスとは、パークレイズが算出する米ドル建ての投資適格社債の値動きを表す指数です。パークレイズ・インデックスは、パークレイズ・バンク・ピーエルシーおよび関連会社(パークレイズ)が開発、算出、公表をおこなうインデックスであり、当該インデックスに関する知的財産権およびその他の一切の権利はパークレイズに帰属します。